

42期の卒業生の発案により2022年度から始めた標記の実験教室につきまして、5月18日(土)に今年度の1回目を実施致しました。今回は、「グラム染色を通して学ぶ生物の構造と共通性」をテーマに、43期の岡田祥功君(国際医療福祉大学)がメインの講師を務めて下さりました。また、サポートとして、同期の片桐蓮君(東京大学)・佐藤弘康君(東京大学)、42期の鈴木隆仁君(千葉大学)、41期の島村泉里君(信州大学)が、運営をして下さいました。

前年度は参加する生徒の数は多くて10人程度でしたが、今回は中学1年生～高校3年生まで合計55名の生徒が参加をしてくれました。そのため、急遽、化学室とあわせて生物室(ペンタゴン)も使用をさせて頂きました。はじめに、「細胞」や「菌」に関する基礎事項についての事前学習として、化学室に集まり岡田君による講義を受けました。参加生徒に発問をしたり、前に出て簡単なプレゼンをしてもらったり等、双方向の講義で皆集中して聞いている様子が印象的でした(下の写真)。



それから、2つの実験室に分かれて、事前に(数日前に)専用の(手の型の)培地を用いて生徒の手の平から採取した菌を、染色して顕微鏡で観察をする実験へと移りました。ここでも、運営をして下さった5人の卒業生たちの、臨機応変さと協力し合って進める力に驚かされました。

(次ページへつづく)

当初は化学室のみで実験までおこなう予定でしたが、参加生徒数が極めて多いという嬉しい悲鳴により、生物室(ペンタゴン)でも同時並行で実験を進めることになりました。41期の島村君が、生物室での実験のメイン講師を務めて下さり、他の来校された卒業生の適格なサポートもあり、実験は予定通りに進んでいきました(下の写真)。



こうして、予定していた2時間の中で、今年度の第1回の「栄東ラボ」を終えることができました。実験後の考察・まとめで最後に全員が化学室に集まりました。その場で、生徒から「次の栄東ラボはいつですか？」と嬉しい質問がありました。また終了後には、個別に残って卒業生たちに更に深く質問や議論をする生徒や、(中間試験前だったこともあり)理科の勉強内容の質問をする生徒の姿がありました。

参加をしてくれた生徒にとっても、5名の卒業生にとっても、学ぶことの多いひと時であったと思います。本行事の実施にあたり、実験のご指導・ご協力を頂きました理科の先生方や各学年の先生方、事務室の方々をはじめとする教職員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。